

外部評価委員会結果記録書

令和6年9月30日作成

評価年月日	令和6年8月19日（月）
評価の概要	<p>1 令和5年度のEMSの取組結果について</p> <p>電力使用量削減には、LED化などいろいろな取組があるが、それぞれの取組の寄与度が明確ではない。難しいと思うが、それぞれの取組によってどうなったかという効果が測れればいい。</p> <p>岡山県は他県に比べてPR不足に見える。せっかくやっている環境配慮の取組を県のブランディングにつなげるようなことをやってもらえたらいいと思う。</p> <p>蛍光管の在庫があれば、なかなかLEDには替えないと思う。指定管理者についても同様で、そのあたりを変えていくと効果が上がるのではと思う。</p> <p>2 令和5年度のエコ・オフィス・プランの取組結果について</p> <p>太陽光発電設備の導入や新築建築物のZEB化については、計画期間中にどの程度実施するのか不明確であり、計画における目標の立て方として疑問がある。</p> <p>調達電力の60%以上を再生可能エネルギー電力とするとなっているが、結構ハードルが高く難しいのではないかと思う。また、電力会社の排出係数だけ見るのではなく、発電方法による環境への影響や持続可能かどうかという観点で考える必要があるのではないか。</p> <p>異常気象がもはや当たり前になっている中、新築建築物だけでなく既存建築物の断熱改修に、指定管理施設も含め、予算をしっかりとつけて取り組んでいかないといけない。</p>

評価の概要

エネルギーの地産地消、自給自足ということが重要であり、太陽光発電設備については、50%といわず設置できるところには設置して自家消費率を上げていくということを考えてもらいたい。

何よりもまずは目標を達成することが至上命題であり、予算等制約はあると思うががんばっていただければと思う。

技術は日進月歩であり、最新の情報を収集して効果の出る方法を模索することや、場合によっては計画の見直しも検討されたい。

計画における新築建築物のZEB化の取組内容だが、「まずはZEBを目指し、難しい場合はZEB Ready、ZEB Oriented相当とする。」とすべきだったと考える。

ZEB化について、近々新築するものがあるのか、現実味があるのかが心配である。また、再生可能エネルギー電力の調達については、現状と目標との差が大きく、追いつくのか心配だ。

エコ・オフィス・プランの取組については、難しい面はあるが進めていかないといけない。頑張ってもらいたい。

3 令和6年度取組について

LED照明の導入についてだが、蛍光灯の在庫があるとなかなか進まない。また、経済性を優先する傾向があり、LEDに替えると明るくなり電気代も安くなるが、替える経費が掛かるために替えないということになる。

民間企業であれば、環境問題やダイバーシティなどにお金をかけて取り組まないと社会から認められずマイナスとなる。環境問題に関心を持っている若い人が集まるような魅力的な社会にしていくためにも、将来に向けての投資と考えてお金をかけて取り組まないといけない。

県民の環境に対する意識が高くないと予算をつけにくい面もある。社会全体の意識改革が必要となる。

評価の概要	<p>地元企業から再生可能エネルギー電力を調達し、そのメンテナンスを地元企業に任せると、地元の産業の振興にもつながり、産業振興という側面でも効果がある。</p> <p>新築だけでなく、長寿命化の事業の中で、断熱リノベなどにも積極的に取り組んでいただけると目標値に近づいていくのではないかと思う。</p> <p>岡山県の環境問題への取組は、全国的にも早かった時期がある。環境関係で日本のリーダー的な県にすることを強く主張して予算を取ってやれば実績値は上がるが、自然の状態にいけば時間がかかる。</p>
-------	---